

アグリカレッジ福島

福島県農業総合センター農業短期大学校

令和7年度長期就農研修 NEWSLETTER (2・3月合併号)

各研修生の1年間の軌跡及び感想をまとめました！

～研修生1年間の軌跡～

OIさん



ネギの収穫作業 (写真：I氏)

Q1 研修開始前の状況は？

- ・農業の知識や経験は全くなく、県外で運送業に従事。
- ・福島県には農地や作業場、住宅もなく、ゼロからのスタート。

Q2 研修で学んだこと

- ・トマト、ミニトマト、きゅうり、ネギ等を栽培。様々な品目を経験することにより、自分にあった品目を見つけることができた。
- ・土づくりから栽培管理、収穫、販売、片づけという1年の流れを経験することができた。この経験は財産であり、特に販売が研修中に経験できたことは、今後の出荷先の開拓や作付け計画に活かすことができる。

Q3 研修を終えての感想及び今後の意気込み

- ・色々分からないことが多く不安だったが、仲間に助けられ、いろいろな経験をしてここまでやっていくことができた。
- ・中古住宅購入及びそのリフォームに係る費用、作業場の取得など予想以上の出費があったが、目標は当初と変わらず1,000万円以上稼ぐこと。この経験を活かしてより精進したい。

○大河原幸枝さん

Q1 研修開始前の状況は？

- ・当初は親の水稲（18ha）を継承することについて、ぼんやりとしたイメージができなかった。
- ・水稲育苗ハウスの有効活用を考え、水稲のほか、パプリカにも挑戦したいと考えていた。



修了式にて研修生誓いのことばを述べる大河原幸枝氏（写真奥）

Q2 研修で学んだこと

- ・水稲のほかスマート農業研修や農業機械研修等、様々な研修に積極的に参加した結果、自分の考えの甘さを痛感するとともに、最後は自分で考えて動き、経営をしていくことが重要だと分かった。
- ・経営継承については農林事務所に相談し、R9に行くこととなった。

Q3 研修を終えての感想及び今後の意気込み

- ・お世話になった水田経営学科の先生方へ挨拶した際、来年度は先進農家研修先として学生を受け入れてもらえないかとの話をいただいた。自分だけが良ければいいのではなく、次の世代につなげるための指導ができるようにならないと感じた。

○○さん



ネギは種作業（写真：O氏）

Q1 研修開始前の状況は？

- ・きゅうり選別作業の経験はあったが、ほ場で栽培した経験はない。

Q2 子育てをしながらの研修。 1年間やりきれたポイントは？

- ・アグリカレッジ福島での研修は、自分で計画を立てて進めていく。このスタイルは、私にとっても合っていた。学校のように時間割が決まっていれば、1年間続けるのは難しかったかもしれない。

○渡部佑樹さん

Q1 研修開始前の状況は？

- ・自動車学校に勤務。農業の知識や経験は全くなかったので、初めは農家さんが何を言っているのか、全く理解できなかった。



修了証書授与の様子（写真左：渡部佑樹氏）

Q2 就農にあたって新たに農業法人を立ち上げ、認定農業者として認定されたが、背景やポイントは？

- ・個人で農業を始める場合には、5年も持たない人が多いと聞いた。農業を本気で行うのであれば、法人化し、人を集めてから始めるのが良いとのアドバイスを受けて決意した。
- ・ポイントは人脈。お世話になっている農家さんが愛用している種苗店や、自動車整備工場の社長などを糸口に、様々な農家さんとのつながりや、販路の開拓をすることができた。

○佐々木寛史さん



サトイモ選別作業（写真：佐々木寛史氏）

Q1 研修開始前の状況は？

- ・地域おこし協力隊。活動内容は農家さんの支援等であったことから、3年かけてある程度の農業に関する知識や経験はあった。

Q2 地域おこし協力隊の経験は活かされたか。

- ・考えることと実際に手を動かすことは全く違うことがわかった。全てが後ろ倒しになってしまった。
- ・農地を借りる約束をしていた農家さんとは諸事情により契約をすることはできなくなってしまったが、代わりに地域おこし協力隊時代にお世話になった農家さんから借りることができ、渡部氏同様、人脈の重要性を実感した。